

情報連絡員報告・11月分

「いざなぎ景気」超え、中小企業には実感なし

< 東京都中央会 >

11月の情報連絡員報告によると前月は、大幅に好転した製造業の売上高DI（前年同月比）値が悪化、収益状況と業界の景況DI値は製造業・非製造業ともに悪化した。政府の月例経済報告では景気拡大が戦後最長となったが、「いざなぎ景気を超えたというが、中小企業には実感がない」、「いざなぎ景気を超える好景気だが、国民の懐は厳しい」等の業界の声が報告され、都内中小企業に景気拡大の実感はないようだ。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計

業界の声

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- ・暖冬のため、百貨店等の冬物の売上が悪く、追加生産の注文がこない。春夏物の企画品の売上も悪く、工場の生産はストップし、パート・一部従業員の休業をしている。（織物製外衣・シャツ製造業）
- ・和裁業者は全国的に仕事を奪い合っている。問屋の破産で織元が倒産することが多く、着物の販売も下降線をたどっている。この時期、仕事がない組合員も多く、深刻な問題になっており、景気の回復は業界とは無縁に思える。

（和装製品製造業）

「鉄鋼・金属」

- ・前年に比較して、増加傾向になっていない。いざなぎ景気を超えたというが、中小企業にとっては実感がない。（鋳物製造業）

「電気機器」

- ・売上高は単価の若干上昇もあり、増加傾向にあるが、原材料の上昇には追いつけず、相変わらず採算は厳しい。受注は堅調で、ほぼ年度内の目標も達成可能と思われるが、相変わらずの短納期で多忙感が増すばかり。（配電盤機器製造業）

「その他製造」

- ・稼働率が上昇のまま横ばいとなり、資金充当が悪化。雇用については若者離れが慢性化し、不安な状態が続いている。受

注価格の上昇分を労務費にあてて、人員を確保しているため、収益状況はむしろ悪化している。(ガス圧接業)

「卸売業」

- ・例年11月は最需要期のクリスマス商戦向け商品の発注期であるが、家庭用ゲーム機を除いては出足が悪く、今後のヒット商品の登場が切に望まれる。(玩具卸売業)

「小売業」

- ・温暖な気候のために大型野菜が豊作すぎて、白菜やキャベツ、大根等が廃棄処分される結果となった。(野菜果実小売業)
- ・海外で犬にかまれた日本人が狂犬病を発症、韓国での高病原性鳥インフルエンザの発症のニュース等の影響が心配される。(ペット小売業)

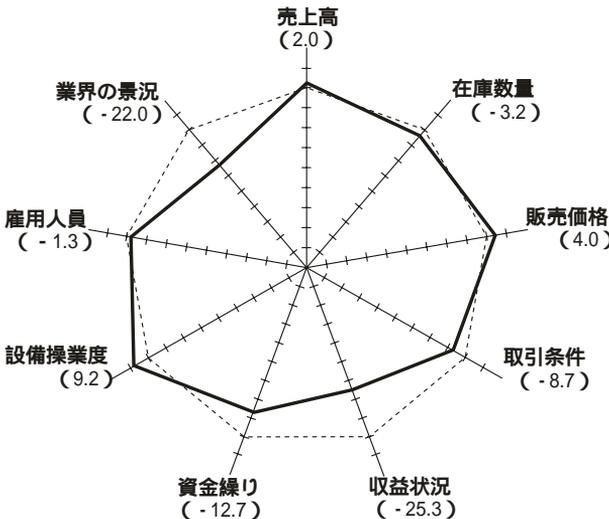
「サービス業」

- ・いざなぎ景気を超える好景気とのことだが、国民の懐は厳しく、クリーニングに金をかけるのなら、他のことに使うという状況である。景気が回復しても、衣類のメンテナンスは家庭で行い、クリーニング業界には戻ってこないのでは。(洗濯業)

＜要望事項欄より＞

- * 駐車違反の取締りを見直してほしい。特に時間の見直しをお願いする。 [帆布製品製造業]
- * 豊作の年は処分にかかった費用を補助するのではなく、野菜の消費の宣伝活動をしてほしい。 [野菜果実小売業]
- * サラリーマン減税による景気刺激策を要望する。 [建設用金属製品製造業]

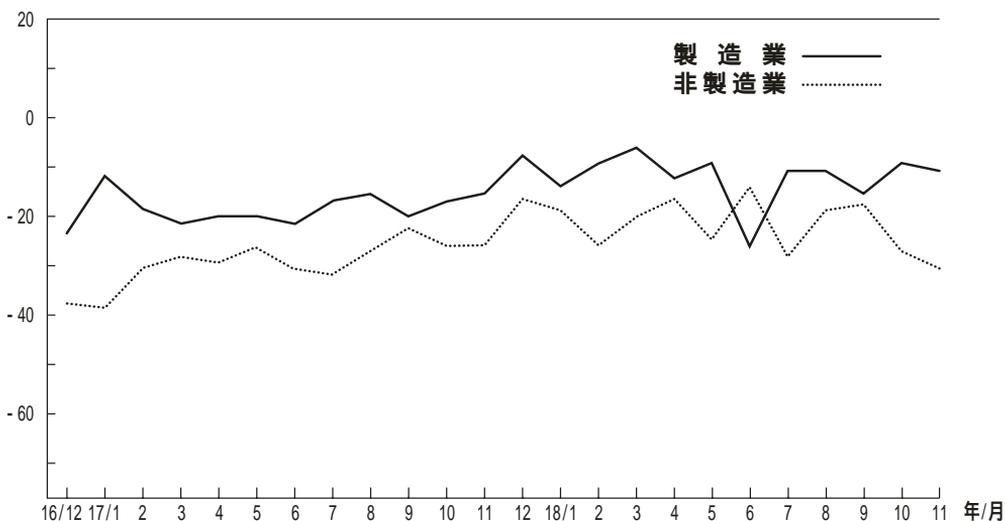
11月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

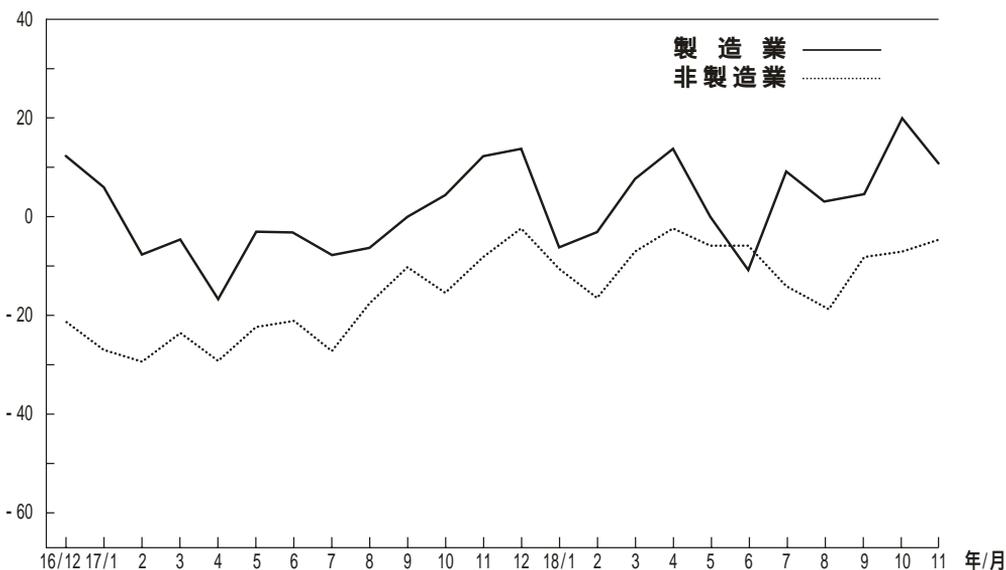
業界の景況DIの変化（H 16.12～H 18.11）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H 16.12～H 18.11）

（前年同月比）



（注）DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。